

○ 学生と市長との意見交換会の内容要旨

令和元年10月17日 香川高等専門学校高松キャンパス

テーマ1 今後住みたい高松とは

No	御意見等	回答
1	冒頭、高松市の15歳から19歳の世代について、転出超過の傾向が続いているという説明があった。 個人的には若いうちに県外に出て経験を積み、将来戻ってくるのが理想だと考えているが、20歳以降の人が戻ってきやすい施策などはあるか。	一度高松を離れた若者が戻ってくる際、ネックになるのが仕事である。 商工会議所と協力して、就業支援施策に取り組んでいる。 また、東京の渋谷区に高松での就職などについて相談できる「瀬戸・たかまつ移住&キャリアサポートセンター」を設置し、少しずつではあるが実績を上げているところである。 今後とも御意見にあった施策について力を入れていきたい。

テーマ2 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

No	御意見等	回答
1	公共交通機関は整っていると感じるが、利用者数が少ないためか、バス路線の本数が少ないと感じる。 電車との乗り継ぎの際、バスの時間に合わせて電車に乗る（電車の本数全てにバスが接続されていない。）というのが、多少面倒である。	現在の高松市のバス路線は、ほとんどの路線が高松駅（瓦町）を経由しているが、（中心市街地などでは）相当重複する部分もあり、今後、琴電の駅を整備するとともに、それらを交通結節拠点として活用するフィーダーバス路線を再編し、全体の利便性を更に高めてまいりたいと考えており、その中で御意見あった点も考慮してまいりたい。 バス路線の本数の少なさについては、利用者数と運転手の人手不足の両面が課題としてあり、それぞれについて市としてもバス事業者と協議・調整をしていきたい。

No	御意見等	回答
2	<p>限られた予算の中で、世代を超えて高松市全体のまちづくりを行わなければならない中、（説明のあった）コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの趣旨をもう少し詳しく説明してほしい。</p>	<p>多核連携型コンパクト・エコシティを推進するにあたって、郊外の人たちを切り捨てるのかという批判もあるが、そうではない。今までのまちづくりというのは、車に乗って郊外の大型施設で買い物をするのに便利なまちづくりであったが、将来、高齢者が増加し、車に乗れない人が増えても、集約拠点へ都市機能などを集約することで、バスで郊外に行くことができ、さらに公共交通機関を乗り継ぎ、まちなかへも行けるようにする、そうすることで、買い物難民を防ぐことができると考えている。誰もが年齢を重ねても住みやすい、コンパクトなまちづくりを目指している。</p>
3	<p>バスを利用することで郊外の人たちが街中に来やすくなるのは分かるが、バス路線を増やしても、バス停までの移動手段を考えなければならず、結果として利便性は高まらないのではないか。</p>	<p>バス・電車乗り継ぎ100円割引や、70歳以上の市民を対象としたゴールドIruCaカードによる運賃半額制度などの公共交通利用促進施策により、利用者数は少しずつ右肩上がりであることから、その効果は出てきている実感している。</p> <p>不便だから乗らないという悪循環を断ち切り、少しでも多くの方が公共交通機関を利用するようにしていくことで、その利便性が高まっていくことになると思う。</p>

No	御意見等	回答
4	バス停まで離れていて利用しにくい人のため、安価なタクシー、あるいは無人運転のタクシーなどの考えについて、どう思うか。	<p>過疎地ではデマンドタクシーといって、行政の補助を受けながら安価に運営しているタクシーもある。</p> <p>また、買い物支援のバスや、食料品等を販売する民間運営のワゴンバスなどもある。</p> <p>地域によっては、そのようなものうまく組み合わせながら、総合的に考えていかないといけないと思っている。</p>

テーマ1、テーマ2以外で

No	御意見等	回答
1	I o Tスマートシティたかまつの推進によるオープンデータについて、災害対策等にも利用できることから、積極的に進めてほしい。	基本的には、市民にも全部公開で進めている。今後、こんなデータが欲しいというような要望があれば、ぜひ出してもらいたい。
2	オープンデータについて、研究で使う立場からすると、加工されて整理されたデータよりも、元のデータで十分の場合もある。	データの種類によって、公開の仕方は異なると思うが、担当課に御意見あったことを伝えたい。
3	スマートシティたかまつや地域共生社会の実現など、高松市が取り組んでいることを、周りの自治体にも広めてほしい。	本市では3市5町で「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」を構成しており、今回の御意見を踏まえ、今後とも連携の取組を進めてまいりたい。

No	御意見等	回答
4	昭和町にある高松市図書館に自習スペースがあればいいのだが。	<p>図書館をはじめ、市公共施設での自習スペースを確保してほしいという要望は多い。</p> <p>図書館について、その本来の利用目的は図書の貸し出し・閲覧である。</p> <p>文献を閲覧するなど図書を利用して勉強するのは構わないが、閲覧席で単に自習することについては、自粛をお願いしている。</p> <p>要望が強いことは実感しているが、物理的な問題もあることから、御意見として承り、検討すべき課題とさせていただきたい。</p>
5	通学の際に気になる点として、道路の用水路に蓋をするよう整備してほしい。	<p>用水路は、基本的には農業用水であり、土地改良区が管理している。複数の田んぼに流すことと、掃除のため、開渠にしておく必要があるようだ。市道の拡張等で蓋を設置することもあるが、解決していない。問題意識は持っている。</p>
6	高松市を拠点としているスポーツの活性化と、観光や人の活性化をどう捉えているか。	<p>創造都市づくりの文化芸術の中で、スポーツは大きな柱として捉えている。</p> <p>特に、トップスポーツのうち、カマタマーレ讃岐とファイブアローズには、高松市も出資し、株主として支援している。</p> <p>その他にも、アイスフェローズやオリーブガイナーズもあり、スポーツを通じて市民が元気になるよう、市として力を入れて支援していきたいと考えている。</p>